

大学名：三重大学

ASPUnivNet の 4つの機能他	評価項目	事例記述
1. 学校のユネスコスクール加盟を支援します (加盟に関する相談も含む)	① ユネスコスクール加盟を希望する地域の学校から相談があったときにそれに応じることができた。	特に相談が無かった。
	② ユネスコスクール・チャレンジ期間実施校に対する相談に応じることができた。	特に相談が無かった。
	③ 地域の加盟済のユネスコスクールに向けて ESD/SDGs をリードする学校としての「質の向上」にかかわる支援を行うことができた。	特に要請がなかった。
2. 大学の持つ知的財産をユネスコスクールの活動に提供します	① 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールに向けた支援 (資料提供やコーディネート、出前授業やワークショップなど) を行うことができた。	ユネスコスクールの三重中学校・高等学校は、SSH 指定校として、ESD/SDGs 教育に熱心に取り組んでいる。三重大学と三重大学 ISO 学生委員会が主催している町屋清掃に、三重中学校・高等学校の学生が多数参加し、三重大学の学生と触れ合うことにより、間接的に地域のユネスコスクールの支援を行っている。 ユネスコスクールの三重大学教育学部附属中学校の活動を支援した。進路について考えを深めるとともに将来に向けた生き方を考えること、および、総合的な学習の時間の取組への意識を高め、より深い探究活動につなげることを目的として 6 月 28 日に開催された第 2 学年の校外学習において、教育学部の教員 9 名がそれぞれの専門分野に基づいた特別講義を実施した。講義に先立ち教育学部の学生による大学生活の紹介等も実施した。
	② 研修会やワークショップを地域のユネスコスクールと協働して開催することができた。	ニーズがなかった。
	③ 大学の資源を活用して、地域のユネスコスクールと協働で教材やモデルプロジェクトを開発することができた。	ニーズがなかった。

3. 地域の教育機関とユネスコスクールとの連携を促進します	① 地域のステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	ホームページ上の広報にとどまった。
	② ユネスコスクールと地域の多様なステークホルダーとを結びつけることができた。	ホームページ上の広報にとどまった。
	③ ユネスコスクールに関連した地域教育委員会との連携や地域における大学間の連携を促進することができた。	ホームページ上の連携にとどまった。
4. 国内外のユネスコスクールとのネットワークづくりを支援します	① 地域をこえた国内外の多様なステークホルダーにユネスコスクールの存在や意義について知らせることができた	ホームページ上の広報にとどまった。
	② 地域をこえた国内外のユネスコスクールと協働で活動することができた。	科学技術振興機構（JST）の国際交流事業である「さくらサイエンス」の支援を受けて、令和5年11月8日から15日にかけて、三重大の協定校であるホーチミン市師範大学の学生9名（うち大学院生2名）と教員1名を招へいし、「科学人材育成を目的とした教育プログラムに関する研修」を行った。招へいした学生達は卒業後に主に高校の理科教員を志望しており、ベトナムの理科教育のこれからの在り方に高い関心を持つ学生達である。今回は三重大で実施しているジュニアドクター育成塾の生徒達との交流や、三重県内のSSH校や科学館への訪問、さらに三重大の授業への参加を通して、子ども達の能力を引き出す理科の指導法について考えることを研修の目的とした。
	③ ユネスコスクールがグローバルな活動することについてそれを支援することができた。（例：ユネスコスクールの国境を越えた交流、海外とのオンライン交流、海外のプロジェクトへの参加など）	国内活動に専念した。
5. 大学内の活動	① 大学内でユネスコスクールの存在や意義について広く知らせることができた。	三重大は、ユネスコスクール委員会を構築し、研究科・学部から委員を委嘱して運営している。特に、2021年度からは三重大国際環境教育研究センター（2024年度より地球環境センター）のHPに、ユネスコスクールのパーナーを設け、三重大ユネスコスクール委員会の活動、成果などを常に公表している。

		三重大学地球環境センター（GECER）HP https://www.gecer.mie-u.ac.jp/
	② 学部大学院の教育課程でユネスコスクールにかかわる教育を行うことができた。	三重大学の教養教育のカリキュラムの「環境学F」の講義において、ユネスコスクールにかかる教育を行った。資料は、三重大学 Moodle にアップしており、受講生はいつでもカリキュラム内容にアクセスできる。
	③ 調査研究活動でユネスコスクールに関連した調査研究を行うことができた。	ニーズがなかった。
	④ その他	
6. ASPUnivNet のネットワーク機能の活用	① 加盟大学間で情報共有ができた。	科学的地域環境人材育成事業のプラットフォーム上で、情報共有を実施した。
	② 加盟大学間で連携した取組ができた。	ニーズがなかった。
	③ その他	